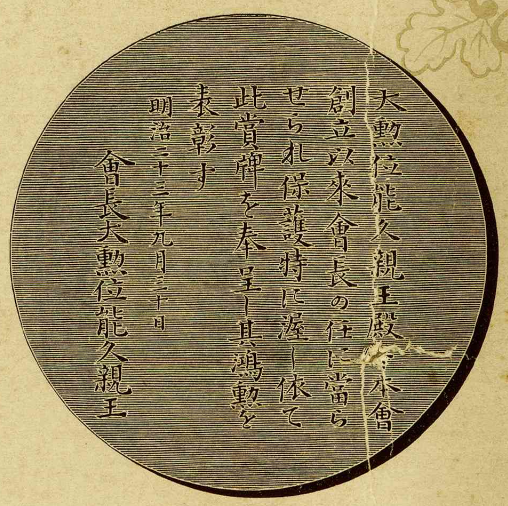
故東京地學協會會長

陸軍大將大勳位功三級

能久親王殿下

紀念



IN MEMORY

OF

HIS IMPERIAL HIGHNESS GENERAL PRINCE YOSHIHISA,

THIRD ORDER OF THE GOLDEN FALCON,

LATE PRESIDENT

OF

THE TOKIO GEOGRAPHICAL SOCIETY.

東京地學協會

Tokio Geographical Society.

誄詞

故の東京地學協會の會長、陸軍大將大勳位功三級能久親王殿下の柩の御前に、副會長從二位勳一等侯爵鍋島直大、同く子爵榎本武揚、謹み恐み會員一同に代りて、誄詞申し奉らむとす。あはれ人の世は、去りてかへらぬ水のごとく、病の憂瀬に浮き沈むならはしは、高き卑しき差めあるへからず。忍ひまつれは腸裂け、いはむとすれは聲ふるはるれと、殿下の大御國のため、わか地學協會のため、御心をつくしたまひしと、いかて稱へまつらてあるへき。さるは、はやう輪王寺宮と申し奉りし時より、世の中さはかしかりしかは、或は戰の街に、馬の跡の塵を蒙らせたまひ、或は伏見の宮の隈なき月に、御思をよせさせたまひ、世治まりては、八重の海路を踏みわたりて、外國に學の道をたつねさせたまひしなと、その御心をつくしたまひしといくはくそや。

北白川宮を相續せさせたまひ、尋いて陸軍に御身をよせられしよりは、御功もかつ〳〵あらはれたまひしかは、はやく勳一等に敍てられたまひ、中佐より大佐に進み、少將に上り、歩兵第一旅團長に補せられ、大勳位に敍てられ、又中將に進み、第六師團長に補せられたまふ。この間あるは陸軍戶山學校の敎頭として、軍事敎育を勵ましたまひ、或は近郊に出てたゝして、親しく兵をならしたまふ。

去年征淸の御軍起りてよりは、ことに御心をくたきたまひ、ことし近衞師團長に補せられたまひては、やかてその兵を率ゐて、臺灣に出てむかはせたまふ。さては薪に臥し膽を甞るのふるとは更にもいはず、照日はたゝく坂路を踏みわたりたまひては、風腥き荒野に夜をあかし、

雨くらき夕闇をたとりたまひては、橄欖の葉影に、露を凌かせたまひしなと、その御心つくしのほと、思ひやり奉るもかしこし。されは我か大君は、その御功をおほしやらせたまひ、陸軍大將に進めしめられ、菊花章頸飾、功三級金鵄勲章を授けたまひ、いよゝその御職にいそしませたまはむとせしに、悔しきかな悲しきかな殿下には、この譽れある事ともをのこして、空しく御病の爲に薨去したまひぬ。あはれ誰人か、をしみ奉らさらむ、いつの世にか御功をわするゝ時あらむ。

かく國民の歎き悲しむにまさりて、我か地學協會は、更に惜み奉り、悲しみ奉ることあり。さるはその創立の時會の長に推戴し奉りしに、御心ちよく受けさせたまひ、貴き御身におはしなから、我かものとして、會の爲にいたつかせたまひ、暇なき御身におはしなから、常に會の事を御心にかけさせたまひしかは、會務は日々に整ひて、その世益をなしゝことも著しかりき。

今や臺灣の事やう〳〵治まりにしかは、幾くもなくして、うるはしき御影を仰き奉らむ、いさましき御馬の嘶きはわか協會の門にひゝきわたらむと、頼み奉り、待ち奉りしに、事は心とたかひて、かく御柩の御前に瘦せたる秋草を手向けまつりて、泣きさもらはむとは、いかて思ひかけゝむや。

あはれ白川の水去りてかへらす、流にうかふうたかたのはかなきは、世のならひと思へとも、けにきのふけふとはおもひ奉らさりけり。こゝに直大武揚等、はふりおつる袖のなみたをはらひ、ふるはるゝ聲をのみつゝ、會員一同にかはりて、誄詞申し奉るさまを、天かける御靈、あはれとたに、御そなはしませや。

非賣品

明治廿九年二月廿六日印刷
明治廿九年二月廿九日發行

編纂兼發行者　東京市京橋區加賀町一番地
前田秀實

印刷者　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
佐久間衡治

發行所　東京市京橋區西紺屋町十九番地
東京地學協會

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
株式會社秀英舍第一工場